日本英学史学会　第 59 回全国大会

プログラム・研究発表レジュメ

期日　　2022 年 10 月 15 日（土）～ 16 日(日)

会場　　岩手県立大学アイーナキャンパス

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通１丁目７－１

いわて県民情報交流センター7F

TEL. 019-606-1770（代表）

連絡先　日本英学史学会本部事務局

〒112-8585 東京都文京区小日向３丁目４－１４ 拓殖大学政経学部

矢ヶ崎邦彦研究室内

電話＆ファックス：03－3947-7111

Ｅメール：kyagasak@ner.takushoku-u.ac.jp

主　催　　日　本　英　学　史　学　会

第 59 回日本英学史学会全国大会プログラム

岩手県立大学アイーナキャンパス開催

発表時間：25 分　全体質疑応答：15 分

午前の部

司会：

1.　９：４５ ―　１０：１０　石原　千里

2. １０：１５ ―　１０：４０　矢ヶ崎　邦彦

3. １０：４５ ―　１１：１０　千代間　泉（オンライン発表）

4. １１：１５ ―　１１：４０　大前　善幸

5. １１：４５ ―　１２：１０　赤石　恵一

午後の部　全体質疑応答（～１２：３０）

昼食・写真撮影

午後の部

司会：

6. １３：００ ― １３：２５　松久保　暁子

7. １３：３０ ― １３：５５　増井　由紀美

8. １４：００ ― １４：２５　田辺　陽子（オンライン発表）

9. １４：３０ ― １４：５５　西口　忠

午後の部　全体質疑応答（～１５：１５）

閉会式　１５：２０

挨拶　大会会長　飛田　良文

学会役員一覧

〇第 59 回全国大会役員

大会会長：飛田　良文

大会実行委員長：大前　義幸

大会実行委員：赤石　恵一、矢ヶ崎　邦彦、本部役員等

大会参加、

＊本学会 HP の全国大会参加申込フォームから参加申込を入力すること。

＊大会出席の折には、必ず本プログラム・研究発表レジュメをご持参ください。

＊大会中、会場内は禁煙ですので、所定の場所以外での喫煙はご遠慮願います。

＊OHC やパソコンの設定準備のため、各発表間に 5 分間とってあります。

お一人の発表時間は 25 分です。時間厳守でお願いいたします。発表時にレジュメを用意される方は、20 部印刷してお持ちください。

＊MAC ユーザーは、アダプターを持参ください。また、マイクロソフトユーザーの場合も、パワーポイント使用の際、メモ機能が使えませんので、メモ入りの原稿を印刷してお持ちください。

＊本年は、2 日目の開始時刻が午前 9 時 45 分となっています。

■岩手県立大学アイーナキャンパス

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通 1 丁目 7 － 1

いわて県民情報交流センター7F

TEL. 019-606-1770（代表）

≪交通≫

・盛岡駅下車、徒歩約 7 分

≪宿泊案内≫

・各自で宿泊予約してください。

東横 INN 盛岡南（徒歩約 2 分)、ルートインホテル盛岡駅前(徒歩 2 分)、ホテル JIN(徒歩 5 分)、エースホテル盛岡(徒歩 12 分)、ホテルニューカリーナ(徒歩 12 分)など

【会場案内図】

雫石川
杜の大橋
コジマ電気
いわて県民情報交流センター
（アイーナ）
←至盛南大橋
ROUND1
盛岡駅本宮線
岩手朝日テレビ
マリオス
地下自由通路
東西自由通路
交通広場
←至仙台・東京
JR盛岡駅・IGR盛岡駅
東北・秋田新幹線・IGR
至秋田・八戸→

岩手県立大学アイーナキャンパス
アイーナ７階
盛岡駅側
マリオス側
ごみ入れ
プロジェクトルーム
WC
パソコン実習室
エレベーター
エスカレーター
学習室1
学習室2
学習室3
学習室4
学習室5
小田島組☆ほ～る

研究報告　第 162 号

目次

1. 石原　千里　　「Ranald MacDonald の綴りについて」

2. 矢ヶ崎　邦彦　「グリフィスの教え子における英作文の研究」

3. 千代間　泉　「アーネスト・サトウがガイドブックで紹介した伏見稲荷大社」
（オンライン発表）

4. 大前　義幸　「『二百十日』に見る、漱石のディケンズ思想」

5. 赤石　恵一　「札幌農学校 1 期生佐藤勇の学習履歴」

6. 松久保　暁子「英和辞典における get の記述とその変遷」

7. 増井　由紀美「近代化の日本が受容した「アメリカ」：留学体験・翻訳文学」

8. 田辺　陽子　「CMS 宣教師ウォルター・デニングと黎明期のアイヌ伝道」
（オンライン発表）

9. 西口　忠「『築地居留地の料理人』の宣教師マダム・ペリーを調べる」

1．Ranald MacDonald の綴りについて

石原千里

私たちは、ラナルド・マクドナルドのこの綴りを当然のものとしている。しかし、英文の資料を見ると、他にも Ranal, Ronald, Macdonald, McDonald などと様々である。例えば、新渡戸稲造の *The Intercourse between the United States and Japan*, 1891 および *The Japanese Nation*, 1912 では 'Ronald McDonald' である。最も多い 'Ranald McDonald' としている例をいくつか挙げよう。

① U.S. Senate, *Executive Documents*, 32nd Congress, 1st Session, No. 59, 1852, pp.25-28. 1849 年 4 月 30 日米国軍艦プレブル号艦長グリンの面前でマクドナルドが行った宣誓陳述の部分である。その内容は先に *Chinese Repository*, Vol. 18, June, 1849 で報じられている。

② *The Friend*, Dec. 1, 1848, Oct. 1, 1849, Dec. 20, 1849, Nov. 1, 1873. マクドナルドが捕鯨船プリマス号を離れる時からラゴダ号船員らと共にプレブル号で長崎から香港に到着するまでの様子を詳しく報じている。この新聞の発行者デイモン Samuel C. Damon 牧師は、マクドナルドが日本を去ってから最初に手紙を書いた宛先の一人である。

③ Malcolm McLeod (Britannicus), *The Ottawa Times*, June 24, 1869 および *Pacific Railway, Canada*, 1875. マクドナルド『日本回想記』の原著者マクラウドが、初校（1857 年成立）の概略を記している。

④ 'Ranald M'Donald Dead', *The Spokesman Review,* Aug.31, 1894. 多くの新聞のマクドナルド死去の報道記事の一つである。

⑤ Eva Emery Dye, *McDonald of Oregon*, 1906. マクドナルドについて書かれた最初の本（歴史小説）である。

Lewis and Murakami's, 1923 *Ranald MacDonald* では、上記の文献中のすべての 'McDonald'（米国の公文書である①の中のマクドナルド自身の署名も）を 'MacDonald' としている。「その'MacDonald' は編者 William S. Lewis の作為の結果である」との仮説を述べたい。

（本会会員）

２．グリフィスの教え子における英作文の研究

―テキストマイニングによる検証―

矢ヶ崎　邦彦

ウィリアム・エリオット。グリフィス（William Elliot Griffis 1843 – 1928）は、アメリカ・フィラデルフィアに海運業者の子として生まれた。1870 年に福井藩に招かれ来日後、東京帝国大学の前身である大学南校などで、理学や化学を教え、1874 年に帰国した。本発表は、大学南校時代のグリフィスの教え子における英作文をテキストマイニングし、英学史研究に欠落している「計量テキスト分析」という試みを，初めて応用する。このようにして、テキストマイニングという量的な手続きで，グリフィスの教え子における英作文において 定量的な特徴を折出する。さらに、意義はテキストマイニングーさらに、その応用たる「計量テキスト分析」―という新機軸を英学史に適用することで、ビッグデータ時代にふさわしい新たなテキスト解釈の検証と刷新を実現させることにある。

調査方法として、福井大学が開示しているインターネットのデータを電子化し、原本と電子データを比較し、データクレンジングを行う。その後、 KH Corder を使用して、抽出語リストを作成した。その後、計量分析を行った。母集団が膨大になるため、一部のみを調査対象とする標本調査(sample survey)にて検討する。本発表で、分析対象とするのは、大学南校時代の 9 名の教え子である。

次に、本発表の Research Questions（以後, RQ）は,以下の 4 つである。

(a) メタ談話標識の使用率はどの程度か。

(b) メタ談話標識の使用方法に類似性はあるか。

(c) 使用する英単語に類似性はあるか。

(d) 今現在の英作文における指針から、どの程度のレヴェルのものだったか。

また、当時の英作文が現代の英語学習者にどのような意味を持つのか、英語教育学的視点から検討する。

（拓殖大学　准教授）

３．アーネスト・サトウがガイドブックで紹介した伏見稲荷大社

千代間　泉

京都市にある稲荷の総本宮「伏見稲荷大社」（以下「稲荷」）は西洋人にとって明治期からの新観光名所であった。現在までの研究によると、アーネスト・サトウ（Ernest Mason Satow）は初めて本格的に英文で「稲荷」を紹介した人物であると考えられる。

「稲荷」は明治以前に名所見物をした西洋人旅行記に記述がない。そのため当時の西洋人の認識は低かった。初めて「稲荷」を掲載した英文ガイドブックは日本人制作の山本覚馬著丹羽圭介発行『京都とその周辺の名所案内』（1873）である。その後西洋人刊行の *Stray Notes on Kioto and Its Environs*（1874・1876・1878）には、簡単な紹介のみがある。

サトウはアルバート・ジョージ・シドニィ・ホーズ（Albert George Sidney Hawes）との編著である *A Handbook for Travellers in Central and Northern Japan*（1881）（以下 HT）に、「稲荷」を執筆する意図を持ち、新たな調査を行うべく京都に向かった。サトウの記した日記によると、現地調査を行い地元の人に見所を聞き取っている。その中には「千本鳥居」情報があり、HT に記された。

HT 初版・第 2 版（1884）の「稲荷」記述には、新観光名所の開拓者であるからこそ、不確かな記述もあった。その後制作された *Keeling's Guide*（1890）（以下 KG）に、その記述がそのまま継承されたことにより、KG は HT の「稲荷」の項目を抜き出し、新たに編集した出版物であったことが確実となった。

「稲荷」は当時の西洋人が理想とした旅行環境（自然風景・日本独自の文化・保養）が備わっていた「観るべき」名所であった。HT シリーズは、バジル・ホール・チェンバレン（Basil Hall Chamberlain）とウィリアム・ベンジャミン・メイソン（William Benjamin Mason）編著の第 3 版（1891）*A Handbook for Travellers in Japan* から第 9 版（1913）に至るまで「稲荷」観光の魅力と安全を担保する山めぐりの行程情報を改版ごとに更新し、それが大きく西洋人「稲荷」観光の進展に影響を与えたと考察する。

以上を、千代間泉（2022）博士論文「英文ガイドブックの視点による国際観光黎明期の研究」―明治期における京都観光の文化史的考察―を基に発表する。

（同志社女子大学大学院博士後期課程）

4．『二百十日』に見る、漱石のディケンズ思想

大前　義幸

夏目漱石(夏目金之助、1867-1916)が執筆した『二百十日』(1906)は、碌さんと剣さんの二人の会話で展開する、漱石作品の中でも珍しい短編小説である。その中でも、剣さんが碌さんに向けて、

「君なんざあ、金持ちの悪党を相手にした事がないから、そんなに呑気なんだ。君はジッキンスの両都物語りと云う本を読んだことがあるか」
「ないよ。伊賀の水月は読んだが、ジッキンスは読まない」
「それだから猶貧民に同情が薄いんだ」(53)

と言う場面がある。もちろん、ここで話題になっているのは、19 世紀のイギリス小説家で、文豪と言われているチャールズ・ディケンズ(Charles Dickens、1812-70)の『二都物語』(*Tales of Two Cities*、1853)のことである。この作品は、フランス革命を舞台に男女の恋愛小説を描いたが、トマス・カーライル(Thomas Carlyle、1795-1881)の『フランス革命』(*The French Revolution: A History*、1837)を意識し過ぎたために歴史に重点を置いたことで、多くの読者から不評を得てしまった作品である。しかし、漱石と同じくディケンズもフランス革命が起きた理由や革命から派生する市民への影響を予期して執筆した作品である。

この『二百十日』は、現在でも多くの先行研究が少なく、また漱石とディケンズとの影響を考察する研究が少ない。よって本発表では、ディケンズが執筆した『二都物語』を再考察したうえで、漱石が『二百十日』で描いた貴族と貧民の間に生じる金力と権力を比較しながら考えてみたい。

（岩手県立大学宮古短期大学部　講師）

５．札幌農学校１期生佐藤勇の学習履歴

赤石恵一

佐藤勇（1858–1932）は札幌農学校１期生である。卒業後は開拓使，工部省，北海道庁などの官吏として北海道における道路，鉄道の敷設を主導した。その間に開いた戴星義塾は後の北海英語学校（現 法人 北海学園）の礎となったともいわれる。退官後は実業に転じ，昭和７年に没した。佐藤は終生，他の１期生から独立した生き方をした人物であったため，その出自と学習の軌跡はほとんど分かっていなかった。本発表は，発表者が継続している札幌農学校 1～5 期卒業生 70 名を対象とした英語学習成功者研究の一断片である。余市町歴史民俗資料館，北海道立文書館，北海道大学大学文書館所蔵史料を主とした調査を行って解明した札幌農学校入学に至る佐藤の学習履歴を報告する。

（日本大学　准教授）

6．英和辞典における動詞 get の記述とその変遷

松久保　暁子

本発表では、他動詞、自動詞として様々な文型で用いられる多義的な基本動詞である get を考察対象とし、英和辞典での get の語義や用例、用法の記述の変遷を考察する。『諳厄利亜語林大成』（1814）では「求ル又得ル」、『英和対訳袖珍辞書』（1862）では 「得ル、受取ル、會得スル、使(セシ)メル」という日本語訳が記載されている。そして『詳解英和辭典』第 2 版（1913)では、「得ル、獲ル[特ニ骨折リテ, 例 *to ～ favor, wealth, or fame; to ～ good wages; to ～one's own living*]」というように、日本語訳、用例とともに「特ニ骨折リテ」という、訳語として現れないことが多い補足的な語義が記載されている。さらに学習者向けの英和辞典『ジーニアス英和辞典』第 5 版（2014)では、「[SVO] ＜物・事＞を**得る、手に入れる**；＜金など＞を〔・・・で／・・・して〕かせぐ〔*for*/*for* do*ing,*〕」というように、日本語訳の他、文型 [SVO]、get の主語、目的語にどのような内容の語がくるかを示す「選択制限」(『ジーニアス英和辞典』第 5 版（2014, p.xv)) という詳しい情報が掲載されている。

さらに get は使役の意味を表す。『詳解英和辭典』第 2 版（1913)では、「⑤セシメル、ナラシメル［勸誘、強制、努力二テ、例 *to ～ a thing done; He got the man home*］」というように、日本語訳の他、語義の補足（「勸誘、強制、努力二テ」）そして用例が挙げられている。本発表では使役の意味を表す get の語義、用例、用法の記述がどのように発展したかについても通時的に考察する。さらに英英辞典が英和辞典の発展に与えた影響についても考察したい。

（桜美林大学　准教授）

7．近代化の日本が受容した「アメリカ」：留学体験・翻訳文学

増井由紀美

2017 年秋、杏林大学に於いて開催された第 54 回全国大会で「近代化日本の女子教育及び幼児教育に影響を与えた二人の女性：Alice Bacon(1858-1918)と Bella Irwin (1883-1957)」を発表した。前者は日本で最初の女子留学生の一人山川捨松(1860-1919)の滞在地ニューヘイブンでホストとなった牧師 Leonard Bacon(1802-1881)の末娘であり、後者はハワイ官約移民の道を開いた Robert Irwin(1844-1925)の長女である。イェール大学図書館所蔵の朝河貫一の日記を読み解く過程で得られた情報を主軸に分析を試みたが、朝河がアリスと捨松がその設立及び発展に大きく関与した津田塾大学とも繋がっていた点に関しては既に拙論「朝河貫一と津田塾大学のつながり」『津田塾大学紀要』第 42 号 2010 で発表していた。

近代化日本の日米交流及び留学生事情についての研究報告は毎年更新されており、これらの研究成果を通して豊かな情報の共有が可能となっている。ニューヘイブンのように日米交流の歴史が長い地域にあっては、資料も多く残されており、研究対象人物が様々に交差し合うダイナミズムを体験させてくれる。

今回は捨松・梅子(1864-1929)と共に女子留学に於いて歴史的な役割を果たした永井（瓜生）繁子（1861-1928）関連書籍及びその人脈から、19 世紀後半の日本が、アメリカ及び西洋をどのように受容していたかを見て行きたい。

1871 年に岩倉使節団と共に日本を離れた 5 名の女子留学生はワシントン D. C.での準備期間を経て 2 名は帰国、梅子はワシントンのランマン家が引き受け、捨松と繁子はニューヘイブンのベーコン家がホストファミリーとなった。ただし、捨松と繁子が同じ家で暮らすことは英語教育に関して得策ではないという理由で、繁子のステイ先はレオナードの友人でもあったジョン S. C. アボット牧師の家に移る。

繁子についての研究は生田澄江著『瓜生繁子』(2009)があるが、それ以前にも繁子研究は存在していた。本学会もその役割を果たしており、『英学史研究』に論考が掲載されているが、いずれも捨松や梅子ほどは知られていない繁子に関する資料を発掘し、その人物の功績を伝えたいという意図が強く読み取れる。ここではジョン S. C. アボットに焦点を当て、繁子が与えられていた知的・宗教的環境について整理・分析したい。また、作家としても華々しい活躍を見せていたアボットの作品は明治初期の日本でも翻訳されていたことが分かったが、なぜあるいは、どのようにして彼の本が翻訳されることになったか知るのも興味深い点である。当時日本はアメリカをどのように受容していたか、ここにその一端が示せればと願う。

（敬愛大学　教授）

8．CMS 宣教師ウォルター・デニングと黎明期のアイヌ伝道

田辺陽子

ウォルター・デニング（Walter Dening 1846-1913）は、CMS（Church Missionary Society・英国聖公会宣教協会）宣教師として 1874 年 5 月に函館に上陸し、聖公会の北海道伝道を開始した人物である。彼は来道初期から和人だけでなくアイヌ民族への伝道を志し、1876 年夏には日高地方の平取に約 5 週間滞在して、ペンリウク翁からアイヌ語を学んだ。また、その道中で立ち寄った札幌では札幌農学校教頭クラークら立会いのもと、第一期生となる伊藤一隆に洗礼を授けている。そのほか、1878 年にイザベラ・バードが来日した際、函館付近の CMS の伝道地を案内し、北海道内の旅について彼女に相応の助言を行ったと推測される。1878 年と 1880 年には対雁を訪れ、樺太から強制的に移住させられたアイヌの人々とも交流している。

このように、デニングは CMS の北海道伝道における先駆者として、函館と札幌を中心に熱心な伝道活動を行っていたが、1883 年に神学上の理由で CMS から解任されてしまう。よって、以降は宗教活動と距離を取り、本州に移り住んで英語教師としての第二の人生を選んだ。東京の慶応義塾や学習院、文部省の『English Readers: the High School Series』(1887)の編纂に深く関わり、仙台の第二高等学校で英語教師として 18 年間務めるなど、日本の英語教育史に名を残した。

一方、アイヌ伝道については後任の宣教師ジョン・バチェラーが引き継ぎ、伝道以外にも社会福祉活動やアイヌ文化の保護に多大な功績を残した。そして、40 年以上にわたるバチェラーの献身的な働きに加え、数多くの著書や関連資料が残されていることから、アイヌ伝道に関わったその他の宣教師にはこれまで学術的にあまり注目されることがなかった（その意味において、中村一枝氏の研究は特筆に値する）。そこで本報告では、1874 年から 1880 年頃までのデニングの CMS 本部への報告書に着目し、アイヌ伝道黎明期の姿を読み解いていきたい。さらに、明治初期の「居留地」函館の姿や平取のアイヌコタン、樺太から強制移住させられた対雁アイヌの様子についても史料から検討を行う。

（東海大学非常勤講師）

9．『築地居留地の料理人』の宣教師マダム・ペリーを調べる

西口　忠

5 年前に野村高治著、村上百合子・村上隆編著『築地居留地の料理人　宣教師マダム・ペリーの料理レシピ 126』(清風堂書店　2017.5)が刊行された。報告者は日本の英学史研究には外国人居留地研究と日本キリスト教史を理解することが大切であると考えている。そういう意味でも興味のある出版物である。

しかし、マダム・ペリーに関する調査を怠ってきた。改めて今年の春になって、大阪市立中央図書館でこの本を借用し、読み始めた。著者の野村高治は「信州松代藩士の家に生まれ」「徳川幕府が瓦解して間もなく故郷を離れ、上京」、「キリスト教宣教師の街頭説教にいたく感銘を受けて入信し、洗礼を受け、築地居留地内の宣教師宅にコック見習い兼雑用係として住み込む」、「住み込んだのはアメリカ人宣教師、ミス・ペリー宅である」。マダム・ペリーについて、「ペリー先生は、あの黒船のペルリの親類だそうだ」(91～93 ページ)。

ペリー提督は米国聖公会の信徒である。1933(昭和 8)年に日本来て、ペリー上陸地を訪問したペリーJames De Wolf Perry Ⅲ(ペリー提督の曾孫) も米国聖公会の主教であり、かなり前から調査をしている。これはマダム・ペリーについても調査すべきと思ったが、大きな壁があった。それは女性宣教師の記録がほとんど残されていないということである。

少し前までに分かっていることは、1891 年ころ来日東京伝道女館で働き、主任になってから伝道女館と改名したこと。著書にアンナ・M・ペリー輯/アイ・ケ・エム訳『主耶蘇御一代記』(東京築地五十壹番館　1895)、Anna M. Perry “*FIVE THOUSAND PHRASES (ENGLISH - JAPANESE) FOR COMMON USE*”(丸善　1897(1)/1904(5))がある。

マダム・ペリー(ミス・ペリー)とは Anna M. Perry と Fanny M. Perry の姉妹であること。無給伝道者として日本で働いていたこと。ペリー提督から見て、一族というが家系図のどこにあたるのかわからない。

9 月初旬、某女史と電話にて Anna M. Perry について意見交換。二人の生没年、墓の場所などの情報をいただいた。歴史的資料調査はその時代の資料を見なければならないとのこと。

（桃山学院史料室　特別研究員）